

議事概要

第5回 AP-BON ウェブセミナー

1. 日時：2021年1月21日

15:00-17:00（日本時間）

2. 場所及び参加者

場 所：Webex ミーティングルーム（オンライン）

参加者：9カ国から26名（うち参加者22名、事務局から4名）

司会者：Mr. Tze Leong Yao

(Forest Research Institute Malaysia)

3. アジェンダ

オープニングセッション：APBON 事務局（環境省生物多様性センター）

- ・各参加者が本セミナーに参加したことを歓迎
- ・会議の際の注意事項及びアジェンダの提示
- ・司会者の紹介

発表1：Dr. Bunthang Touch (Inland Fisheries Research and Development Institute)

“Fish Spawning Habitats in the Mekong and 3S (*) Rivers in Cambodia”

(*)3S Rivers: 3 rivers that flow into Mekong River; Sesan, Srepok and Sekong Rivers

質疑応答

質問：3つの川の近くに保護地域があるか、また、この調査の結果は漁業政策に影響を与えたか。

回答：3S川沿いに1つ6000ヘクタールの保全地域と10個の漁業コミュニティ（CFi）がある。この調査の結果について、主な結果が含まれている政策、メッセージ及び推奨事項等を国、政策立案者、ダム開発、および関連する利害関係者へ提示・共有した。もちろん、特にメコン川と3S川の非回遊魚種にとって、漁業の管理と保全にとって非常に重要である。

質問：ベトナム、ラオス、カンボジアを起源とする3S河川流域からみると、上流での建設は魚の生息地に悪影響を及ぼす。魚の生産への影響を緩和するために、関係国間で国際協力等があるか。

回答：もちろんである。カンボジア、ラオス、タイ、ベトナムからなる地域の政府間組織として、MRC 加盟国間で協力関係がある。たとえば、カンボジアでは、環境省によってダムを建設する前に EIA が研究されてきた。魚の通路は、魚の個体数、特に長距離の移動性魚種への影響を軽減するために構築されている。その一方で、カンボジアのセサン川にあるセサン II 水力発電ダムの魚道の効率はまだ明確ではない。この魚の通過の効率の研究は将来必要である。

質問：産卵場所や産卵する魚に関連する保護や規制はあるか。漁獲はそのようなパターンにどのように対応しているか。（特定期間中は釣りをやめて他の仕事をするのか、それとも釣りができる他の場所に移動するか。）

言い換えれば、漁業が規制されている期間、漁師はどのように生計を立てているのでしょうか。

回答：オープンシーズン（11 月～5 月）は漁業法に定められた合法的な漁具で釣りをすることができ、クローズシーズン（6 月～10 月）は小規模/家族規模でのみ合法で、水域のどこでも釣りをすることができる。水域には保全地域（メコン川、3S 川、トンレサップ湖）があり、漁業コミュニティには保護された保全地域がある。

質問：メコン/トンレサップ湖の漁業と水資源に対する気候変動や地球温暖化の影響についてご教示頂きたい。頻繁な洪水や干ばつが魚の産卵行動に強い影響を与えていると考えている。

回答：はい、もちろん。気候変動、特に干ばつは、漁業資源に影響をもたらす。たとえば、年間の水位は通常 6 月または 7 月に一番高く保たれるが、2020 年の水位は 9 月まで上昇し続けた。その影響でメコン川とトンレサップ川の魚の幼生の漂流に影響を与え、カンボジアの水産資源に影響を与えた。2020 年の魚の生産量は 2019 年と比較して約 30%減少している。カンボジアの内陸漁業にとって、それは洪水などの気候要因に非常に関連していると予測できる。

発表 2： Mr. Hort Sothea (Forestry Administration, Cambodia)(*)

“Cambodia’s Forests and Biodiversity Management: Paradigm Shift, Challenges and Opportunities”

(*) Hort Sothea 氏は、カンボジアの林業局長である Chheang Danny 氏に代わってプレゼンテーションを行った。Chheang Danny 氏は急遽別件のためにウェブセミナーに欠席。

質問：単一大量栽培のプランテーションより、森林に関する統計や政策等はあるか。ユー

カリのプランテーションは在来種には適していないと思うが、その部分についてどのようにお考えなのか。

回答：森林に関する統計や政策に関連して、これまでに FA は、森林被覆評価の観点から一連の森林被覆マップ（2002、2006、2010、2014、2018）を作成し、カンボジア国立などの森林政策に関連する文書も作成した。こちらの文書は森林政策声明、国家森林プログラム、森林生産戦略（草案）、私有林プランテーションのガイドライン等とも関連している。ユーカリ植林地に関しては、天然林からの供給が減少しているため、私有農園からの木材供給に対する需要が高まっている。ユーカリを含む成長の早い樹木は、製紙および家具製造業に供給するために商業目的で植えられていることから、成長の早い樹木は収穫までの期間が短く、利益を上げることができるが、在来種は収穫までの期間が長く、最初はかなり投資が必要である。その一方で、カンボジアにはチーク、ローズウッド、沈香のプランテーションもある。

質問：私たちのチーム（九州大学）は、Phourin Chhnang 氏やカンボジア林業局の他のスタッフと協力し、カンボジアの森林植物相を調査し、4 巻の写真ガイドを発行した。下記の URL よりアクセスし入手することができる。

<https://sites.google.com/site/pictureguides/home/cambodia>

私の最初の質問は、これらの写真ガイドがカンボジアの林業管理スタッフにどれほど馴染みがあるかという質問である。一方、カンボジアの森林では多くの樹種が絶滅の危機に瀕している。私の 2 番目の質問は、カンボジアの森林樹種のレッドリストを保全と持続可能な利用の基盤として編集するプロジェクトはあるか。

回答：まず、九州大学のチームによって編集され、出版されたカンボジアの植物種の写真ガイドに感謝する。写真のガイドは FA のすべてのスタッフと関連するユーザーに配布するのに十分ではないが、これらのガイドは植物相の種を比較的迅速に特定する知識として彼らによく知られている。写真ガイドは、林業管理スタッフ、特に州、地域コミュニティ（コミュニティ林業メンバー）、およびアカデミーで働く FA スタッフにとって非常に重要である。その理由として、彼らはこれらの写真ガイドを使用して樹種を識別することが最も多いからである。現時点では、CITES 条約を実施しており、ほとんどの場合、CITES の付録に記載されている樹種に焦点を当てている。したがって、カンボジアの森林樹種のレッドリストの編集に関連するプロジェクトはまだないが、CITES に関連するプロジェクトはある。

質問：私は、森林資源を管理する部門は 2 つあると理解している。1) 林業局（FA）と 2) 自然保護局。各部門の政策目標はそれぞれ何パーセントか。次の質問は、彼らは森林を別々に管理するのか、それとも共同で管理しているのか。

回答：林業局はカンボジアで持続可能な方法で森林資源を管理・使用する権限を持ってい

る。さらに、林業局はカンボジアの保護林も管理している。環境省の自然保護局（GDACP）の総局は、カンボジアの保護地域を管理している。これは、林業局の下の保護林と自然保護局の下の保護地域の 2 つのシステムがあることを意味する。2016 年以降、カンボジア政府は国有林セクター改革の一環として、すべての保護林（約 150 万ヘクタール）を環境省に移管した。

質問：カンボジアの森林と生物多様性の状況をよりよく理解するための素晴らしいプレゼンテーションである。大メコン圏における平均種数の推定減少は、10 年規模で劇的に見えている中、カンボジアの常緑樹、混合林、落葉樹林、氾濫林の中で、林地から農地への転換に対して最も脆弱なのはどのタイプの森林だと思うか。その理由も一緒にご教示頂きたい。

回答：すべての種類の森林は、森林地から農地への転換に対して脆弱である。近年、カンボジアの人口は急増し、森林資源が豊富な高地への人口が移動する傾向がある。人口移動はより良い経済的機会を生み出すので、彼らは定住と農業のための土地を必要としている。常緑樹は肥沃な土壌であると考えられているため、移民や地域社会は常緑樹林を農地に転換して農作物を栽培する必要がある。氾濫した森林や落葉樹林も、これらのタイプの森林がコメ生産に転換されるため、転換に対して脆弱である。カンボジアの森林タイプに影響を与えるいくつかの変換要因がある。カンボジアでは、農産物と植林のために大規模な経済的土地譲歩が発行された。さらに、政府が社会的土地譲歩の形で土地のない家族に土地を提供したため、社会的土地譲歩も森林土地転換の一部である。

ディスカッションセッション

- ・ APBON 会議に関するお知らせ
 - 2021 年の 1 月から 3 月までの APBON 関連の会議のスケジュールが共有された。
 - 第 12 回 APBON ワークショップ（2021 年 1 月 22 日）
 - 第 6 回 APBON ウェブセミナー（2021 年 2 月 25 日）
 - 第 13 回アジアオセアニア GEO シンポジウム（2021 年 3 月 3 日~5 日）
- ・ 第 12 回 APBON ワークショップの議題案も共有された。なお、議題案については拡張執行委員会にて引き続き議論される予定のため、決定次第皆様に共有する。

クロージングセッション：APBON 事務局

事務局から、以下のアナウンスがあった。

- 本日のプレゼンテーション資料は APBON のウェブサイト公開されている。
- 第 12 回 APBON ワークショップ（1 月 22 日）にまだ登録していない場合は、事務局にお知らせください。
- 第 6 回 APBON ウェブセミナーは、2 月 25 日（木）午後 3 時から 5 時（JST）に開催。
（発表者：Eun-Shik Kim 氏、三浦知昭氏）
- 第 6 回 APBON ウェブセミナーの議題は、決まり次第事務局から通知する。

集合写真

